

教育用コンピュータシステムの更新について

情報処理センター所長 湊 敏

平成17年度4月から情報処理センターの教育用コンピュータシステムが更新される。現在運用しているコンピュータシステムは平成13年4月に導入したものであるが、コンピュータおよびその関連機器の技術進歩は著しく、また情報教育と関係のない科目においてもコンピュータを利用した教育が行なわれるようになり、現有システムでは対応できなくなってきた。特に最近では、電子教材の活用による教育方法の改善やコンピュータネットワークを利用した e-learning 等が期待されている。これまでのセンターのコンピュータシステムは、主としてコンピュータの操作法やアプリケーションソフトウェアの利用法の教育を目指していたため、コンピュータを利用した教育を支援することは困難であった。教育におけるコンピュータ利用の範囲が広がりを見せているこの時期にコンピュータシステムの更新ができることは非常に幸運である。今回の更新にあたっては、情報教育のさらなる充実とコンピュータ等を利用した教育の支援を目指した。

情報教育については、パソコンの操作法や一般的なソフトウェアの活用方法の教育をこれまでより充実したものになるようにした。現在大きな問題となっていることは、学生が作成するファイル容量の増大に対応できないこととモニターの画面解像度が小さいためモニター上に十分な情報が表示できないことである。学生のファイル容量の増大に対しては、大容量のリムーバブルメディアをこれまでより容易に利用できるようにした。また、モニター上の情報量の不足はモニターを大きくし、解像度を上げることで対応した。さらに第3実習室の教師用コンピュータには教育支援プログラムを導入し、より効果的に授業が行なえるようにした。

コンピュータ等を利用した教育の支援については、e-learning 用サーバーおよび動画配信サーバーを導入することにより電子教材を幅広く利用できるようにした。さらに、インターネットを利用した情報収集をこれまでより容易にできるようにした。

次期教育用コンピュータシステムは、単なるハードウェアの更新だけでなく、教育へのコンピュータの利用という新しい試みがなされている。この次期システムを教育に有効に利用していただくには、特に利用者である先生方のご意見が重要になってくる。このため、次期システムを多くの先生方に利用していただき、問題点や不満な点を指摘下さることを希望する。